

家族で有機農業営み30年

埼玉・鴻巣市
ガバレ農場

技術教えイベントも

【埼玉】鴻巣市で30年前から有機農業を営んでいるガバレ農場の江原浩昭さん(65)。妻の広美さん(65)、息子の共百生さん(30)と1・5畝の畑で年間40〜50種類(100品種)の野菜を栽培し、田2・4畝でアイガモ農法米や特別栽培米を生産、平飼いの採卵鶏300羽を飼育している。

江原さんは大学を卒業後、NGOスタッフとしてエチオピアの農村で活動、自然との調和を大切に有機農業に興味を持った。ガバレ農場のガバレはエチオピアの言葉で「農民」。農場をひろばと読ませるのは、農業や食のことを知ってもらう場にしたという気持ちが入められている。

江原さんは有機農業教室を年20回開くほか、田植えや稲刈り、餅つき、みそ造りなどのイベントも行う。カモの会では、アイ



アイガモを指さす江原浩昭さん(左)と共百生さん

ガモ農法の鴨を参加者と一緒に解体して食べる。「1週間前から緊張していたが、食べてみるととてもおいしかった」と話す参加者もいる。

江原さんは「農業に関わる人が少なくなればその地域や農地は廃れてしまう。少しでも多くの人に農業の関係者になってほしい」と語った。